

令和4年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 主催者賞受賞

## 四谷の千枚田を地域の宝とした 「むらづくり」〜継続は力なり〜

愛知県新城市 鞍掛山麓千枚田保存会

四谷の千枚田を地域の宝とした  
「むらづくり」

かつては1296枚の田んぼが耕されていたが、昭和46年施行の減反政策と経済成長の煽りを受け、平成初期には370枚までに減少。これを危惧した私（小山舜二）は平成3年、地域の宝とした保存活動を始動。平成8年には420枚まで復元、同9年には行政の受け皿として鞍掛山麓千枚田保存会を設立。「ふるさと水と土ふれあい事業」の採択を受け、ふれあい広場や四阿、水車などの施設整備がされた。

これまで耕運機の出し入れも難儀した非効率な棚田に作業道も整備され、軽トラもスイスイと鼻歌機嫌だ。自然環境、多様性に富ん

だ棚田を都市近郊住民の心のオアシス、ビオトープ（生きものの空間）として地域の宝、新城市、愛知県の顔、国民の財産を目指し、「継続は力なり」を格言に活動、位置付けられている。

また、平成28年、地域の中核として唯一の拠り所であった連谷小学校も3人の生徒を最後に開校144年の歴史に幕を下ろし、必然的に保存会が地域の中核を担うこととなった。

### 取り組みの具体的内容及び成果（効果）

#### ①自然景観

世界の人々をきっと虜にする愛知の風景の一つとして「四谷の千枚田」はゆるぎない地位を築き、都市近郊住民の癒しの場を提供し

ている。また、自然豊かな景観と生物多様性に富んだ場所として国内外ともに定評がある。

事例・映画「あん」、ドラマ「リーダーズ」の撮影場所として、また、COP10招致活動に貢献、ジブリパーク構想等々。昨年はNHKの「あさイチ」、「おはよう日本」も3本が放送され、民放各社、新聞記事など多彩を極める。

新城市北西部地域自治区交付金を活用した観光名所案内看板を設置、訪れた観光客は千枚田の次のコース選びに大いに役立ち、喜ばれるとともに圏内に大きな波及効果を得ている。また、同制度を活用してベンチを設置、訪れる人々に「癒しの空間」を与えている。

#### ②体験学習

稲作を通じた農業体験学習（地元鳳来寺小





お田植感謝の夕べ  
—この催しは参加者の協力で賄われ、リピーターが多い—

で千枚田にリアル案山子を設置、訪れる人々に癒しを提供している。

④コミュニティ  
毎年、6月第1土曜日には「お田植感謝の夕べ」と銘打って千枚田の農道沿いに1500本のロウソクを灯し、天空には大輪の花火を打ち上げ、田植えの労と、都市近郊住民、地域の絆を固める催しを実施。この催しは全国棚田サミットの翌年（平成18年）から行っており、地域住民の勢いに天気も味方、梅雨の行事にもかかわらず、雨知らずで催されてきたが、コロナ感染症を危惧、3年間は苦渋の選択として中止とした。

12月の第2日曜日には収穫感謝祭を実施。



地元鳳来寺小学校—田植えから田起こしまでの校外学習が楽しみ—



多様性に富んだ「四谷の千枚田」全景  
—鞍掛山の湧き水が棚田全部を潤す—

学校・豊橋調理製菓専門学校・愛知東農協「子ども農学校」を積極的に受け入れ、指導するとともに、市立鳳来寺山自然科学博物館を始め広範囲に「自然観察会・生物多様性を学ぶ」等々の学習会の受け入れを実施している。

③企業を巻き込んだ活動

企業は環境に配慮する責務があり、その一環として新城市における一大企業横浜ゴム新工場の新入、幹部社員研修・ボランティア活動を保存会共々毎年実施（16年間継続）している。その相乗効果として環境にやさしく育てられた稲藁を工場敷地内で「どんぐり」など広葉樹の育苗の敷き藁として活用、工場内に植栽して排出される二酸化炭素の削減に尽くしている。

平成24年からは四谷の千枚田全域を調査地点として生物多様性調査（モニタリング）、26年からはビオトープ2か所を造成、本年は特定外来植物の駆除作戦など「四谷の千枚田」の環境活動に貢献している。同社と保存会の交流は、植樹祭への参加や、全国規模の奥三河パワートレイル会場整備（沿道清掃）などを通じるにより絆は深い。

また、全耕作面積が3.6ヘクタールと規模も小さく生産性に乏しく販米はほとんどないのが実情で、災害、飢饉に備えた備蓄米を古米として（株）丸八製菓（八雲だんご）に出荷、その古米を地域特産品「千枚田五平餅」とし

搗き立ての餅や地域資源の有効活用とした有害獣の捕獲したイノシシの「しし汁」やニホンジカなどを大判振る舞い、「河西忍の愉快な仲間たち」の奏でる天空のコンサートが催しを盛り上げる。等々、地域ぐるみの活動にとまがない。

⑤地域の絆、むらづくり等は各方面に定評があり、講師、講演の依頼がある。

令和元年には中部環境推進五市サミットにおいて「四谷の千枚田環境活動」と題して基調講演。全国農村振興技術連盟主催の令和元年度農業農村整備地方セミナーでは「地域（むら）の宝々四谷の千枚田 地域活性化に向けた取り組み」と題して講演。また、季刊誌「農村振興」（8月号掲載）に「提言 地域（むら）の宝」を寄稿。新城市立鳳来寺山自然科学博物館において、令和2年7月20日から8月31日まで夏の特別展「四谷の千枚田展」を開催するなど、保存会、地域が一丸になった「むらづくり」が各方面に評価されているものと思う。

継続は力なり…

●令和元年度農水省「第6回ディスカバー農山漁村（むら）の宝」において地域住民ともども住環境整備や各種活動、他の団体を交えた地域振興イベントなどの展開が評価され、



横浜ゴム社員研修  
—同社が取り組んでいるビオトープ等の説明に聞き入る社員

て東三河郵便局の宅配品や道の駅などで販売、好評を博している。

また、同社の協力を得て平成29年から継続している「四谷の千枚田絵画コンクール」は夏休み期間中、小・中学生を対象に実施している。この企画については、コロナ禍の影響で学校としては勉強の関係から子どもたちに無理強いできない、郵便局も感染症の関係から自粛することのこと。保存会としては、自粛と世間全般が委縮してしまふ、こんな時だからこそ、「明るい話題」として八雲だんごの大きな協力を得て、実施に踏み切った。

また、同社とチームTAKO（欽ちゃん&香取慎吾の仮装大賞で昨年度大賞受賞）の協力

コミュニティ部門に選定。受賞式は首相官邸で行われた。同時に東海農政局ディスカバーむらの宝にも選定された。

●令和3年度「ディスカバーむらの宝」において東海農政局から個人部門に選定された。冒頭、小山は「紆余曲折」はあったが、「四谷の千枚田」を地域の宝と位置付け、30年間歩んできた。耕作者、地域住民や行政、企業関係者の皆さんの協力でここまでやってこられたことができた。今回の受賞は皆さんのおかげで頂いた宝物で、その感謝は言い尽くせないとお礼を述べた。

●特別教科「道徳読本」（ビオトープ。モリアオガエル全6ページに掲載）。県教育振興会第4巻「あいち発見 コレくなくんだ」に写真、資料提供、掲載。現在、「新城の社会科」作成協力。

●地域の情報発信として毎月発行している「四谷の千枚田だより」もこの11月に230号を発行（新城市のHPでも発信）、好評を博している。

●令和3年9月、ちくさ座（名古屋市）で開催された大人の勉強会「歴史と継承」（文化庁地域文化財総合活用推進事業）において講演予定であったが、コロナ感染症対策として動画配信。並行してソニーストア名古屋で「千枚田写真展」を開催。

（鞍掛山麓千枚田保存会会長 小山舜二）